

クラブジュニアユースサッカーチームに関する一考察

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 谷, 信太郎 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/36067

クラブジュニアユースサッカーチームに関する一考察

学校教育教員養成課程 98-73 谷 信太郎

1, はじめに

運動部活動について、学校の運動部活動の指導者は、ほとんどが教員であるがその教員が少ない。少子化や生徒減によるクラス数減で、一校当たりの教員も減り続けている。そして、教員減は顧問不足に形を変え、部活動にも影を落としている。また、運動以外の活動への興味・関心などによる運動部活動への参加生徒数の減少、指導者の高齢化や実技指導力不足のために、チームが編成できない、十分な指導ができなくなるなどの状況があると言われている。このような部活の状況を危惧してかは定かではないが90年代後半から金沢市内では、中学生対象のクラブチームが次々と結成されてきた。私はクラブチームでコーチとして4年近く活動してきたが、クラブチームに所属している選手たちが「何を求めてクラブチームに入ってきているのか?」、「なぜクラブチームを選んだのか?」という疑問を何となく抱き続けている。このことが、クラブチームについて調べたいと思った動機である。しかしここで、「クラブチームを選んだ明確な理由が本当にあるのだろうか」、「なぜ、部活ではなかったのか」と疑問が深まった。現在金沢市内にはクラブチームが5チームある、選手たちは自分の通う中学校にサッカー部があれば6チームの中から好きなチームを選んで所属することができる。このような環境の中で実際に選手たちはどのような理由をもってクラブチームに入ってきたのか知りたいと考え、選手のクラブチームの選択理由や選手たちがクラブチームをどのように見ているのかを調査した。また、クラブチームの監督や中学校サッカー部の顧問がクラブチームをどのように見ているか調査し示した。

すなわち、本研究では、金沢市に5つあるサッカーのクラブチームを取りあげクラブチーム設立の主旨、中学生クラブ員がクラブチームを選択した動機と、現在の活動についての満足の状況についての3つの視点から研究を進め、クラブチームの現状を明らかにすることを目的とする。

2, 調査対象者、方法

インタビュー調査は、金沢市内に拠点を置くクラブチーム5チームのうち協力を得られた4チームの監督4名、県トレセンでスタッフとして活動していて面識のあるサッカー部顧問3名とした。1対1の面接型を基本として行い、あらかじめ考えておいた質問項目に加え、興味、関心を引かれたことな

どに関しては必要に応じて深く質問した。

質問紙調査は、協力を得られた4チームに所属している選手101名（1年生44名、2年生57名）に対して行った。3つのクラブチームにおいては、大会等で監督に会った時に調査紙を渡し、配布と回収をお願いした。私がコーチをしているクラブチームでは、調査紙を直接選手に配布し、その場で直接回収する方法をとった。

3. 結果と考察

クラブチームはスポーツクラブの特徴である、①共通の目的をもっている、②常に対面的な人間関係がある、③我々意識がある、④加入・脱退が自由、⑤役割を決め分担しあっているの5つのうち、①共通の目的②人間関係がある、④加入・脱退が自由、⑤役割の4つを備えているといえる。クラブチームは共通の目標・目的をもっているが、<目的><入団資格>などにあるように単に「サッカーをすること」ではなく「サッカーが上手くなること」「良い選手、レベルの高い選手になること」を目標・目的にしている。また、目的や基本理念にあるように、人格の形成など人間教育的側面を持っていて、これらはスポーツクラブの特徴とは少し異なる、クラブチームの特徴の1つといえる。

インタビューの結果を見ると、部活の顧問（教員）では一貫指導が難しいことや専門的知識を持っているとは限らないという現状を改善したいという思いからクラブチームは創られたといえる。そして、クラブチームが部活と違い、また、部活に誇れるところとして、専門的なコーチによる一貫指導が容易であるという点が上げられる。この、指導者や指導の面においては、部活動の顧問も認めるクラブチームの長所だといえる。クラブチームの監督と部活の顧問の間で異なった点は、クラブチームは、クラブ員に対して人格形成や人間教育の一面を持っていたとしてもそれはサッカーを通して行うもので、あくまでも良い選手の育成が目的であり、それに対して部活動は、教育の一環で生徒指導が第一義であるようにとらえられている点である。クラブチーム全般からみるとクラブ員の指導は部活ほど重要視されていないし、実際、顧問の目から見るとクラブチームのクラブ員の指導はできていないと映っている。しかし、クラブチームも部活もお互いの存在を認め、連携をとるなどして良い関係でありたいと願っている。そして、クラブチームと部活の共存共栄が双方の理想であるようだ。

選択理由は、設問Bの7群33項目の平均値を算出することで順位づけを行うと、「②技術向上・挑戦」郡の4項目、「技術を向上させたい（1位）」「もっとうまくなりたい（2位）」「新しい技術を学びたい（3位）」「色々な技術に挑戦したい（4位）」が上位を独占する形になった。これに続いたのが「④楽しさ」の「部活よりクラブの方が楽しそう（5位）」「チームの雰囲気良かった（9位）」、「⑥活動希望・目標」の「県外や」の傘下のチームなどと試合がしたい（7位）」「試合や合宿などで遠征に行きたい（8位）」、「③指導者」の「良い指導者、専門的指導者がいる（6位）」「常に指導者に練習を見てもらえる（10位）」となった。上位10位に加え「練習が楽しそうだった（11位）」「サッカーの強い高校に（推薦で）入りたい（12位タイ）」「県や市のトレセンに選ばれたい（12位タイ）」までが全体の平均値より高い値を示しているといえる。よって、この13項目がクラブチームの選択理由に影響を与えているといえる。逆に、「①影響を受けた他者」の「先輩に誘われた（33位）」、「兄、親戚が入っている、または入っていた（32位）」、「親に勧められた（31位）」、「クラブチームの指導者に誘われた（30位）」、「少年団の指導者に勧められた（28位）」、「友だちに誘われた（27位）」、「あこがれている先輩や親しい先輩が入っている（26位）」の7項目は、下位に集中している。さらに、「⑦うわさ」の「他のチームの悪いうわさを聞いた（29位）」「所属チームの良いうわさを聞いた（24位）」、「⑤クラブチームに関する情報」の「チームの理念がすばらしいと思った。（25位）」も下位に順位づけがなされている。続いて「チームのユニフォームやジャージがかっこいい」が24位に順位づけがなされている。この11項目は全体の平均値より低い値を示していることがからわかり、影響を受けていない項目だといえる。

活動に関する満足の状況では、1位に「①好き・楽しい」の「サッカーが好きである」がきている。「④自分の取り組み方」の、「さらにうまくなりたいと思っている（2位）」「練習や試合には真剣に取り組んでいる（5位）」「自分もチームのみんなもうまくなっている（7位）」「誰にも負けたくないと思って練習している（9位）」と上位に順位づけされた。他には、「②人間関係」の「チームメイトとはうまくいっている（3位）」、「⑥部と比べて」の「部活よりクラブの方がうまくなれる（4位）」「部活よりクラブの方がたのしい（6位）」、「⑦今のチームに入って良かったと心から思っている」が8位となった。また、「⑧その他」の3項目、「今のチームをやめたいと思ったことがある（2

7位)」「練習を休みたいと思うことがよくある(26位)」「サッカー以外の事をしている時の方が楽しい(25位)」は、すべて下位に順位づけがなされている。「②人間関係」の「チームメイトの間でいじめがある(28位)」「指導者が特定の選手をひいきにしている(24位)」「嫌いな指導者がいる(23位)」も下位に順位づけがなされるなどマイナスの項目が下位を閉めている。

4. まとめ

クラブチームの特徴としては、サッカーをすることではなく、サッカーが上手くなること、クラブ側からいえばよい選手の育成が目的とされていることがあげられる。この目的のため、5, 6人の専門的な指導者が指導にあたっていて部顧問からも評価を得ている。クラブ員の教育に関しては、積極的なクラブチームもあるがクラブチーム全体では部顧問からは評価されていない。

クラブチーム選択理由で一番重要な項目は「技術向上・挑戦」群の項目であり、逆に「他者」は重要な理由にならないことが示された。

選手の考え関してみると「好き・楽しい」や「人間関係」「クラブの活動」のプラスの項目についてはすべて高い平均値を示していることから現在の状況に満足しているといえる。しかし、やめたいと思ったことのあるクラブ員を見ると「もっとレベルの高い事、違う事を教えて欲しい」「指導者が特定の選手をひいきにしている」「嫌いな指導者がいる」の平均値が高く示されるなど、不満を抱いていることがわかる。指導者の言動やイレギュラーであることがチームをやめたい理由としてあげられていたが、これらは指導者の配慮、努力によって改善されるべき問題である。やめたいと思うクラブ員が増えることは、チームがサッカーを学ぶためのよい環境ではなくなっていることだと考え、改善していただきたい。また、クラブチームは部活の生徒指導的側面を強化するために学校との密な連携や地域とのさらなる密着が望まれる。部活も地域から外部コーチを取り入れたり、クラブチームの指導者と情報の交換や指導者の派遣などの工夫をすることによって、よりよい指導者の確保と指導者の増員が望まれる。サッカー協会への選手登録やクラブ員の部活への入部規制などの改善も望まれる。しかし、お互いが競い合い、生徒、クラブ員にとってよりよい環境を整えていきたい。